

14. 泌尿器、生殖器の疾患 (更年期障害を含む)

文献

Kobayashi M, Naya Y, Kino M, et al. Low dose tamsulosin for stone expulsion after extracorporeal shock wave lithotripsy: Efficacy in Japanese male patients with ureteral stone. *International Journal of Urology* 2008; 15: 495-8. CENTRAL ID: CN-00648178, 医中誌 Web ID: 2008254384

1. 目的

尿管結石患者の体外衝撃波結石破碎術後の低容量タムスロシン及び猪苓湯の排石効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

千葉大学病院泌尿器科及び病院泌尿器科 2 施設

4. 参加者

4mm 以上の尿管結石と診断され体外衝撃波結石破碎術を施された患者 102 名

5. 介入

Arm 1: タムスロシン 0.2 mg/日 体外衝撃波結石破碎術第 1 日より排石まで投与 38 名

Arm 2: ツムラ猪苓湯エキス顆粒 7.5 g/日 体外衝撃波結石破碎術第 1 日より排石まで投与 30 名

Arm 3: 非投与群 34 名

6. 主なアウトカム評価項目

結石の排泄を腹部単純 X 線、超音波検査で評価

7. 主な結果

Arm 1, Arm 2, Arm 3 の無結石率はそれぞれ 84.21%, 90%, 88.24% で有意差は認められなかった。排石に要した期間は Arm 1 で 15.55±6.14 日、Arm 2 では 27.74±25.36 日、Arm 3 では 35.47±53.70 日であり、Arm 1 は Arm 2 ($P=0.0116$) 及び Arm 3 ($P=0.0424$) に比較して有意に排石に要した期間が短かったが、Arm 2, Arm 3 間には有意差は認められなかった ($P=0.4982$)。

8. 結論

体外衝撃波結石破碎術後のタムスロシン投与は尿管結石の結石排泄期間短縮に有効であることが示唆される。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

本研究は $\alpha 1$ -受容体遮断剤であるタムスロシンが体外衝撃波結石破碎術後の尿管結石の排泄期間を短縮するのに有効であることを証明した。一方、尿量を増加させて尿管結石の排泄を促進すると考えられている猪苓湯は無効であった。同様の試験で猪苓湯群が有意に排石期間を短縮するとの報告が複数ある。猪苓湯の効果については症例数を更に増やして評価する必要がある。

12. Abstractor and date

岡部哲郎 2010.6.1, 2013.12.31